

令和元年度 支え合いの地域づくり推進モデル事業 報告書

社協名	三浦市社会福祉協議会
対象となる実践・テーマ ※いずれか1つに○をつける。	①)市町村社協の総合相談・生活支援機能の強化 (2)市町村社協のボランティアセンター機能の強化（日常生活圏域等における住民主体の福祉活動、ボランティア・市民活動の推進） (3)災害時支援を視野においた関係機関・団体との連携・協働の推進 (4)地域福祉活動計画、社協発展・強化計画等の強化、充実 (5)市町村域を越えた広域的取り組み及び支援の推進 (6)その他（福祉施設との連携による地域福祉活動の推進等）
事業名	総合事業におけるB型類型のモデル的施行

事業の概要〔事業の目的・取組みの概要・成果や参加者の様子・今後の展望等〕

※活動の様子が分かる画像を2枚程度挿入して下さい。

※各市町村社協ホームページ等にて本事業の掲載等を行う場合は、URLを記載して下さい。

目的：当会では、地域のつながりの受け皿にすべく、全世代型の「未病サロン」をこの3年間で整備してきた。既に30か所を超える数には増えたが、現状社協スタッフの支援の下、展開されている。今後、継続していく上では、生活支援コーディネーターが中心となり、住民主体の活動に移行していく必要がある。今年度は3か所程度に絞り込み、自主運営が出来るようにB型のモデルとして整備していく。

取組：5～8月：「未病サロン」30か所の現況確認

9～10月：「未病サロン」参加者・運営者のアンケートを実施する予定であったが、台風被害による被災地支援等により延期

11～12月：かながわコミュニティカレッジの協力の下、「地域支え合い講座（三浦版）」計5回実施、総勢30名参加

1～2月：「未病サロン」参加者・運営者のアンケートを実施 計11か所

3月：3か所に絞りヒアリング開始予定であったが、コロナウィルス感染予防のため延期

成果：・サロンを継続するだけでなく、一度立ち止まり俯瞰できた意義は大きかった。

- ・特に、新たな担い手の育成として、「地域支え合い講座（三浦版）」開催により、「未病サロン」の存在を広く周知出来た。
- ・モデル地区の選定においては足踏み状態であるが、今年度の事業計画における重点事業として継続出来ている。
- ・行政との連携が欠かせないため、今後設置される第2層協議体に絡めて、B型の施行を進めていく。

課題：先行きの見えない時代となっていく中、この「サロン」等の居場所が必要不可欠であるとする。今まで整備してきた「未病サロン」は全世代型という形態で行ってきているが、現状は高齢者の参加者でほぼ占められてしまっている。B型へ移行する中で、共生型の理念をしっかり和植え付けていかなければならない。また、こういった「サロン」への参加に消極的な方々に対して、どのようにつなげていくかはより地域との連携を密にしながら、地区ごとに応じたプログラムの工夫も必要であるとする。

